



繪本通俗三國志

二編
九

〜 21

221

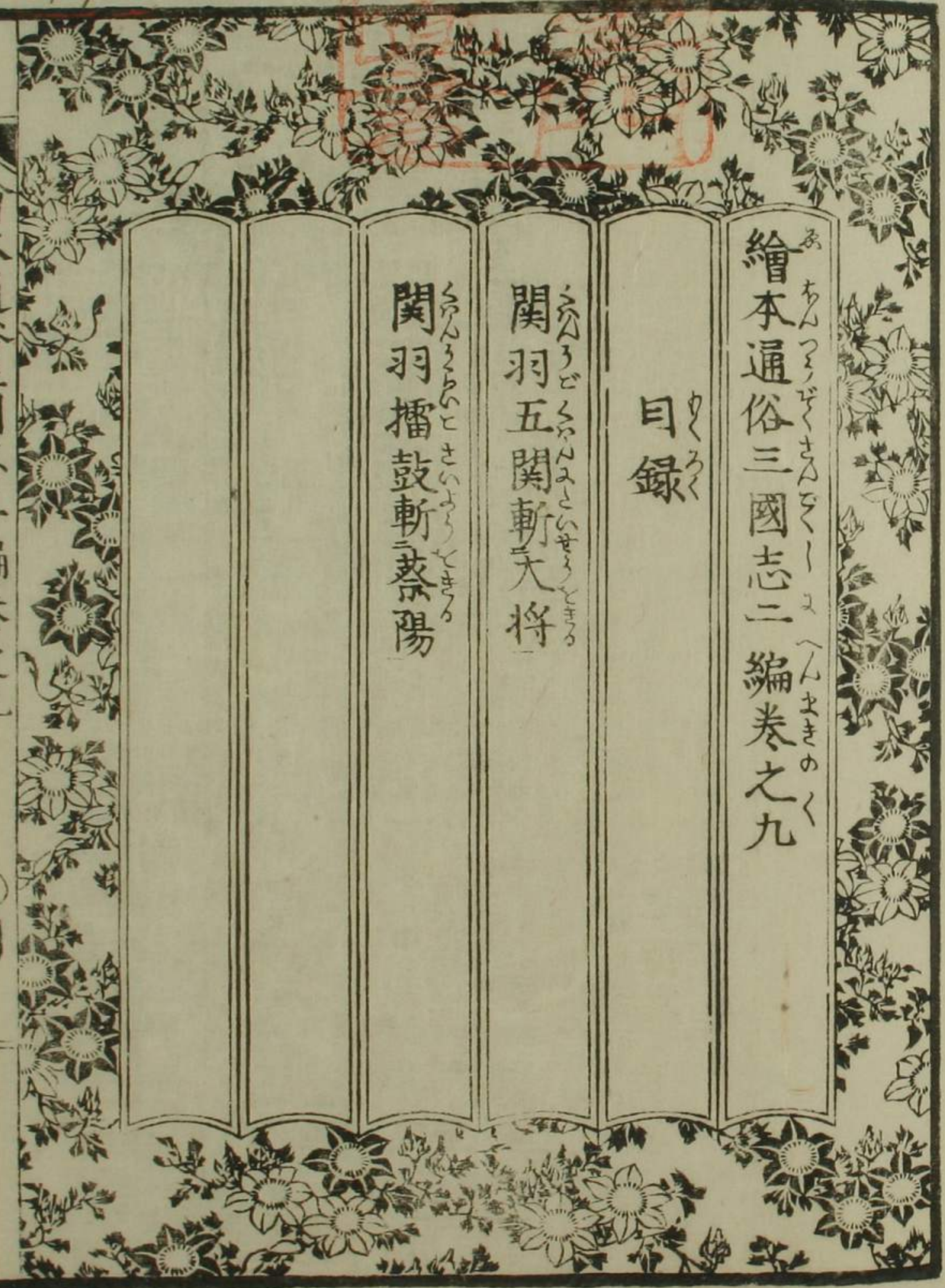
19



旅
221
19

東志
學

子
茶



繪本通俗三國志二編卷之九

目錄

關羽五關斬天將

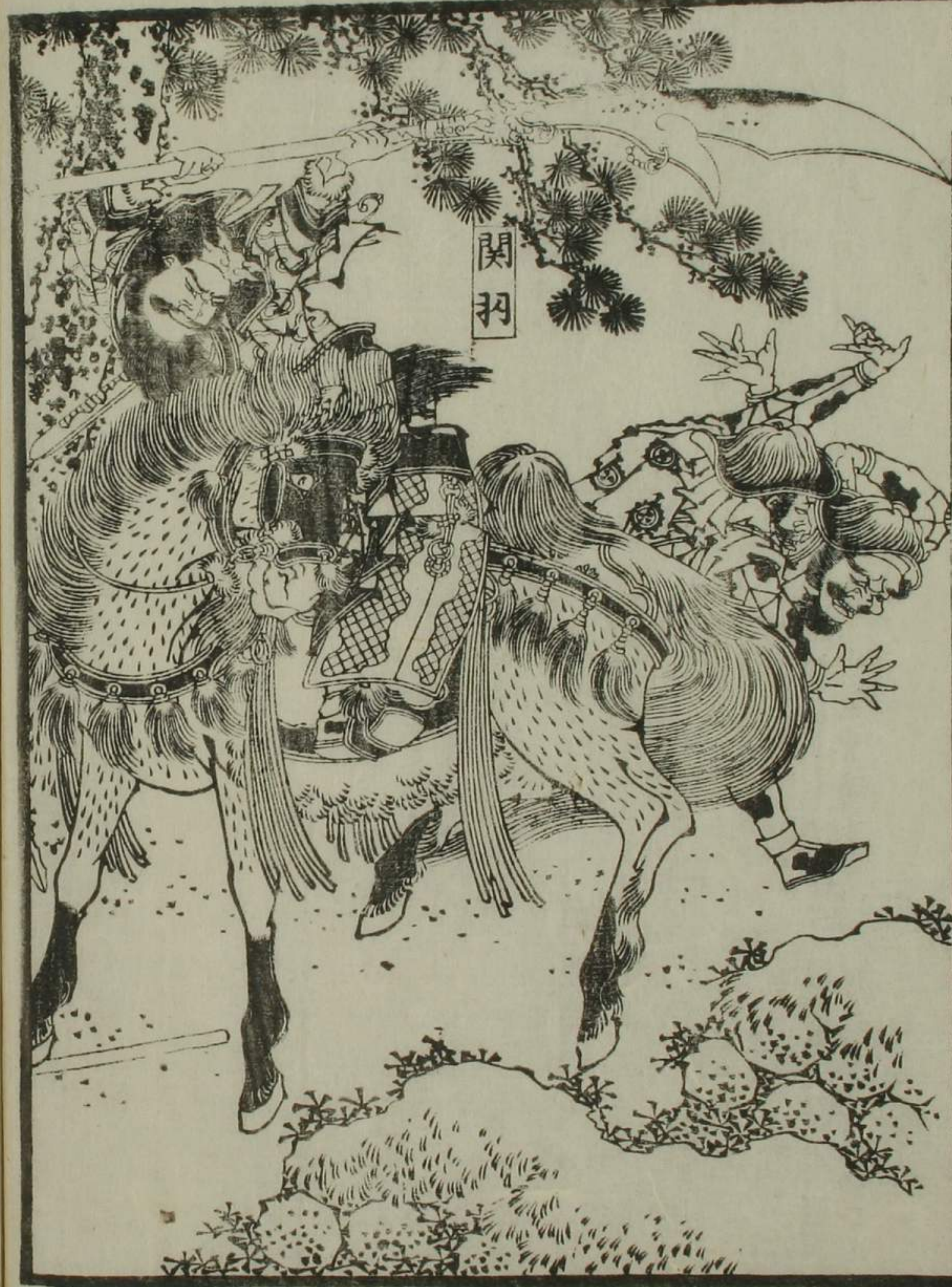
關羽播鼓斬蔡陽

繪本通俗三國志二編卷之九

乃告文と取来り申す。関羽曰く、事火急に出で告文と志
を来さる。孔秀曰く、所關所乃割符ある。御辺まじく是
處に逗留し申す。都へ入と上せ。丞相乃命を受て。そのち
通と入。関羽曰く、使乃往還と待べ。いづの日と送ん孔秀
が曰く、一日丞相乃命あるを。一日住せん。一年あるを。一年住せん。関
羽曰く、やんやん。你いふれを。まじく侮る。孔秀曰く、國乃法度
あるべし。がんを任せど。今乃世龍虎相争と見。輕しく通
あ。後日乃責と。まじく免せん。関羽曰く、汝も。まじく
通さば。只今大ある災ある。願くは。通し。孔秀曰く、
強と通せん。と。ろふ。あ。相 companion せん。まじく。留せ。質と
し。只一人通し。関羽大に怒り。刀とまじく斬と。菓と。孔秀

きう。内。入。関門と閉と。鼓と。兵と集て。又門とひら
ふ。鎗と拵と。馬と。汝と。通へ。と。罵り。孔羽
待兼たると。あ。まじく。真地暗と討と。菓と。西馬とひ
ま。り。二合と。孔秀と腰より。二のま。ま。ま。
諸卒と。震と。怖と。走り。関羽と。音と。
る。汝と。罪と。害と。あ。と。あ。と。あ。と。
丞相と。暇と。請都と。は。あ。と。来。孔秀と。言と。疑と。ひ。
み。と。殺。と。得。と。誅。と。願。と。ま。の。由と。
丞相と。傳と。と。関と。越と。通。と。諸卒と。あ。地と。様
伏と。洛陽と。大守韓福と。関羽と。東嶺関と。越と。孔秀と。斬と。

會通三國志二編卷之九



關羽



孔秀

東嶺關
關羽孔秀
斬

急を追ふ。たゞ一刀を斬り落さず孟坦を獲り計あるは詐して逃
ぎ関羽を伏し處にあひきよせ四方より取らば生取と思ひ
し。案は相違し。関羽が騎たる赤兎馬の千里乃駿足
あるをばたちち追付きたり太守韓福の門乃かこつ馬を
立し居るる孟坦が討たれとてきつ又馬をさくちりて
の兵とをその矢関羽が左の臂にあたりる。かあり棄
て大勢の中へ斬り入韓福の門の前まで追ひ青竜刀と
とりて首より肩を切り斬り落さ敵軍膽をひや
さんぐみ走り逃げ関羽の瘡口よりあぐり血と帛と列きてよく
束縛人の志をえと恐もしく杖中を路といそげ沂水関を
来りたるは乃関所をよせ黄巾乃賊と。後曹操は降り

し。并及乃下喜といふもの大勢よ固たり。関羽が韓福とある
し。来よしときひそく計をゆけと討てと。その辺は漢
乃明帝乃建立しむひ鎮国寺といふ寺ありるを廻廊乃陰は
屈強乃兵二百余人と伏置と。後孟益と撃て叫と死討と出
よと約と。孟益関門をひいて出むるをば関羽其懸
懸あると喜び馬より降りて禮とあると下喜するは將軍乃
威名天下雜らあやぎまへいん今故主乃許しぬあふ。下喜
義を全するあり。そのは深く教の関羽これを誠ありと思
ふ。孔秀韓福を殺したるよと詔と下喜するは將軍の
は不義乃輩と誅しむ。曹操あんど怒とある其よ
くまの事と。まづくまの名をき休息しむと。鎮国

寺は清いなるに關羽の中は人の喜ぶ寺中乃僧侶二十余人
 鐘とあふしく出ぬ久しの中は普淨長老と。關羽が同郷の
 人あり大喜が出發と殺さんと。計とまりをばせん。關
 羽は問訊しと曰。將軍蒲東といひ。幾年ぞ。關羽曰。二
 十年はあり。長老の曰。將軍の事とまりあり。關羽曰。知
 る。長老乃曰。日まを將軍と同郷は生まる。將軍乃家とる。
 けうの河ひの山を隔たり。年久しをばせん。將軍曰。喜
 まる。立腹し。長老故郷乃好む事。あふ波ん
 とあひひるをばせん。關將軍と請と酒をさせん。とさる。沙
 門乃身としと。あふとみどりふ舌と揺さごと叱り。關
 羽はさのさの奴がひて同郷人あふ。昔熟り。さる。

ありとと相伴と方丈へ入る。長老の茶をさむ。關羽は
 二夫人車の上あり。願くまのさる。長老とあひ夫人の茶を
 す。手は戒かとり。關羽は目加の意と悟
 り。後者と呼ぶ青竜刀と側ら。置む。とれ。下喜講堂に請
 ぶ。酒宴とさる。とひる。關羽に付。四方と伺ふ。壁陰
 人衆と伏たり。却る。忍び。巧あふ。とひる。下喜。のさる。は
 好む。人。却る。忍び。巧あふ。とひる。下喜。のさる。は
 つまんど將軍と持成。為あり。關羽い。あや。起る。物陰
 と。斧と持。薙刀とひる。夫と挾さ。とる。あふ
 声と。初。疑ふ。あふ。と。出發と討た。あふ。あふ
 聲と。初。疑ふ。あふ。と。出發と討た。あふ。あふ

會大集三回三二編卷之九

と討りたるに下喜事乃あらむなることと兵ども出よと呼り
 膽太た少年十人をり踊り出るるに關羽青竜刀をまきり
 斬殺さす下喜さまは怖き堂と下り走りりるに關羽さ
 追蒐るるを下喜元來力強きをれを引返して鉄槍を
 投付たり關羽身と避る。青竜刀乃背より打ひりたるに
 刀は下喜が肩より腰よりけり。真三の斬倒を敵勢震怖
 き。十方へ落失るるを長老はまはれ禮とほし。長老
 乃扶よあらざるをさあはるる害あらんといふ。懇懃別
 とほし車と守護しと出りるを普淨長老を衣鉢を收拾し
 るるを去る處に住るといふ。他困は行り雲遊せん將軍
 よく身と保ちあり後日又對面せんと。寺と出り去るる。衆

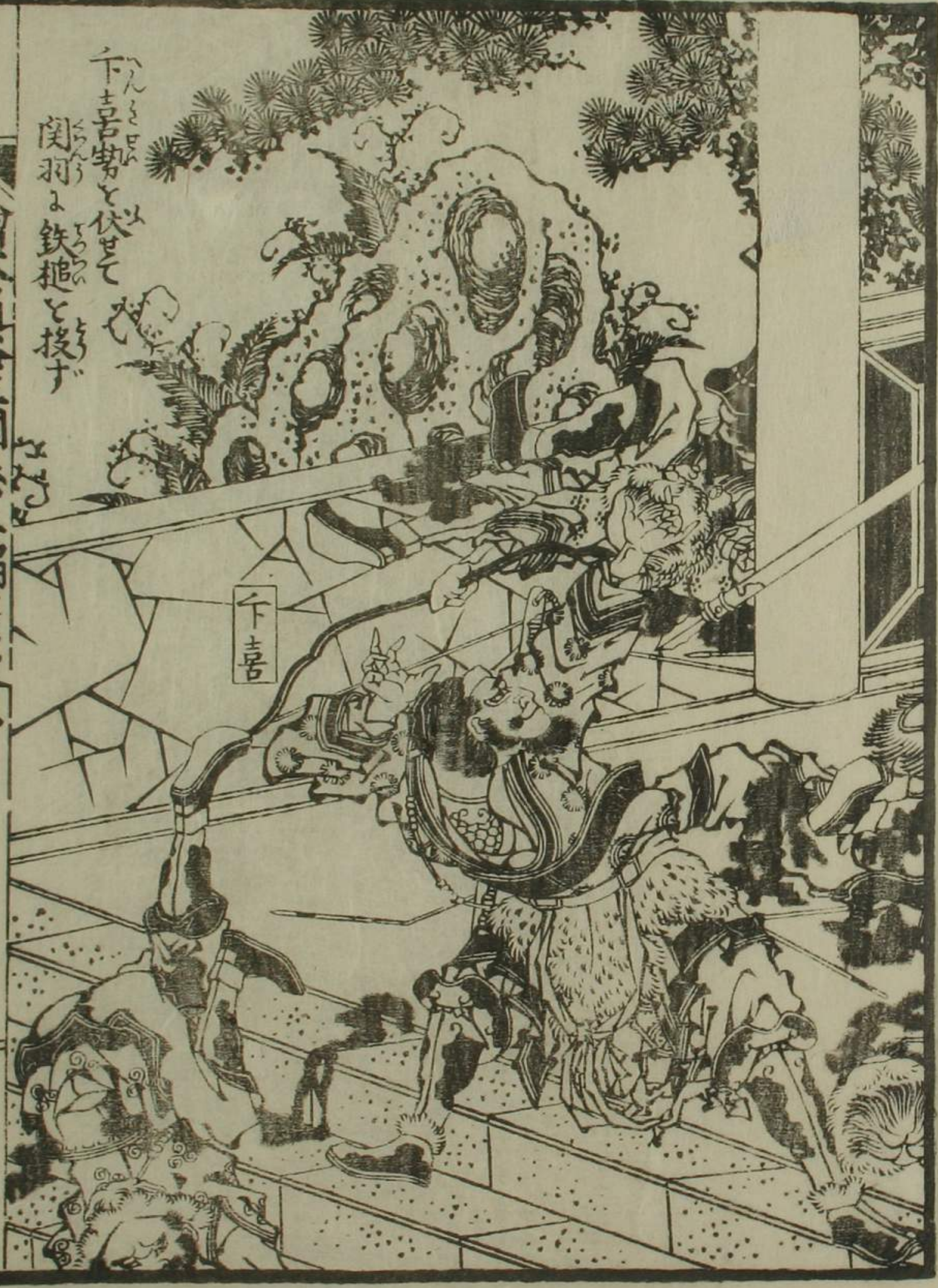
陽乃太守王植を討せ。洛陽乃太守韓福と一類あるに
 勢とあつと相待り。關羽をぞ。沂水關とあり太守
 下喜と殺し。た。今まの處へ来るといふを。門をひ
 いと出む。え。ま。何へ通りぬ。と問ふ。關羽答へる。吾
 兄と尋る。河北へ行。王植曰く。將軍へ天下乃義士あり。遠路
 不馳。疲きむ。二夫人を伴。城中に入。一夜人馬を休め
 夜あけ。打立ぬ。と誠げ。いひ。を。關羽その懇懃あるに
 さま。疑ふ。城中に入。客屋をむ。王植酒宴とす。と
 めんと。招き。を。關羽か。辭し。夫人あるに在。と。志づ
 も難。あ。む。といひ。を。飲食を。客屋を。送り。來る。關羽馬
 秣。甲と解。士卒と休息せ。め。を。王植は。喜。は。從

事胡班（まへん）とやしと下りて、関羽都（くわんうと）と逃（にげ）出（で）る路（みち）と太守（たうしゆ）とある
 も、その罪（つと）なきやと大（おほ）あり、彼（かれ）武（ぶ）勇（ゆう）の容易（やすうい）なありと、汝（あな）の
 千余（よき）騎（き）と率（そつ）しと、客屋（きやくや）を圍（かこ）投（な）炬（く）とて、用意（ようい）一（いつ）竟（かう）る
 衆（しゆ）を積（つ）む四方（しやうほう）より火（ひ）を掛（か）え、外門（がいもん）を燒（や）崩（く）せ、二更（にせう）乃（すなは）比（ひ）
 と合圍（あいつ）し、兵（へい）を出（い）さすべしと下（げ）知（ち）し、胡班（こはん）命（いのち）を受（う）
 と兵（へい）を細（こ）く、乾（かん）る柴（さい）と焰（えん）硝（せう）とをいど、おびて、權（ごん）を集（あつ）
 ち用意（ようい）とて、備（そま）り、たゞ時刻（ときく）を待（まち）り、さきとて、関（かん）
 羽（う）が名（な）と交（ま）ひ、はては、わい、その人（ひと）を、此間（このま）とひそく、伺（うか）ひ
 せん、とあまひ客屋（きやくや）へ行（い）き、関將軍（かんせん）へ、何（いか）く居（い）る、と問（と）は、從（じゆ）
 卒（そつ）答（た）へ、廳上（ていじやう）に書（しよ）を、とて、入（い）り、胡班（こはん）志（し）の、びやく、伺（うか）ひ、ん、
 又（また）、関羽（かんう）左（さ）り手（て）に、あが、髪（かみ）と握（にぎ）り、几（い）より、と、燈（とう）乃（すなは）下（くだ）し、書（しよ）

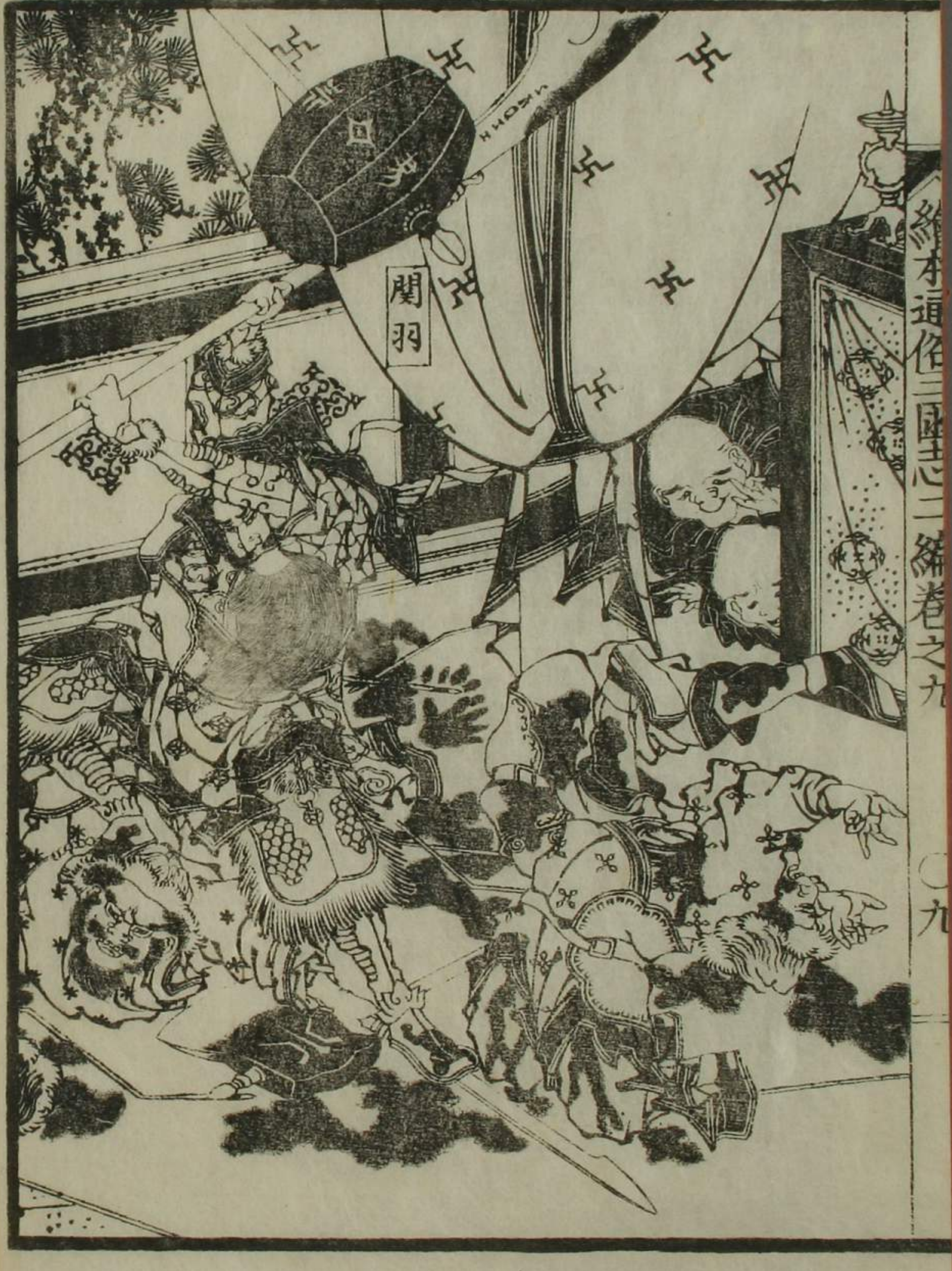
と見居（み）た、氣色（きしき）尋常（じんじやう）乃（すなは）人（ひと）の、あが、と驚（おど）死（し）る、と、お、お、と感（かん）
 嘆（なげ）し、と、ま、ま、天上（てんじやう）乃（すなは）人（ひと）あり、といひ、る、と、その、お、と、高聲（かうせい）、
 一（いつ）、又（また）、関羽（かんう）、付（つ）、あ、ま、の、と、問（と）、胡班（こはん）内（うち）、入（い）り、某（それ）、太守（たうしゆ）、位（ゐ）
 づ、從事官（じゆんじやん）、胡班（こはん）、と、や、も、の、あり、と、答（こた）へ、と、関羽（かんう）、驚（おど）、ひ、と、
 許都城（きよとじやう）外（がひ）、乃（すなは）、胡華（こけ）、といひ、人（ひと）乃（すなは）子（こ）、胡班（こはん）、曰（い）、ま、ま、あり、あ、又（また）、迎某（むか）
 父（ちち）と、知（し）る、人（ひと）、関羽（かんう）、その家（いへ）に、宿（しゆく）を、假（かり）た、る、と、熱（あつ）り、從者（じゆんじや）と、
 一（いつ）、胡華（こけ）、言傳（ごんでん）、する、書（しよ）、問（と）、て、は、か、る、と、胡班（こはん）、ひ、と、
 ぐ、嘆（なげ）、し、と、ま、ま、父（ちち）乃（すなは）書（しよ）、と、入（い）り、と、あ、が、ひ、あ、を、ま、り、と、天（てん）下（くだ）忠義（ちゆうぎ）
 乃（すなは）人（ひと）と、殺（ころ）さん、ま、ま、天（てん）下（くだ）の、人（ひと）を、扶（たす）か、り、不（ふ）知（ち）あり、の、ま、り、と、
 ま、ま、せ、と、落（お）さん、ま、ま、と、あ、ま、ひ、と、近（ちか）く、より、と、低熱（ていねつ）、る、王植（わうしつ）、令（しん）
 霄計（せうけい）、と、の、け、將軍（せんぐん）と、ま、ま、と、早（はや）く、城（じやう）を、出（い）で、落（お）させ、と、

二更乃比と合圖の四方より火を掛んと其ひそりに関門をひ
りいそ出いせんといひるをべ関羽大に驚馬たるとその山取あへど
二夫人と車に乗門外まで出がる果して火炬を持たせその
どひひりくと来りあはまる胡班ひそる北に関門をひかひそ
送り出し客屋を回り四方より火をうけしをば伏兵賊をほ
くりと討と出さだま入ささざりるをどる人一人山ほ初計を
推し逃たふあふんきうは追蒐よとと飛たてく追蒐る
関羽の胡班を扶けられ二里をり出さる火炬とと不はきて
かたりのまき人馬追来り関羽を逃たふと聲よ言り王植真
先は馬をまきむ関羽も馬ととめさ汝れとよりまきと仇ふふ
まゆは焼殺さるといふとととといひるま王植きまあへど兵と下

知しととつがさ鎗をひ振りて突と蒐る関羽馬とま人青
龍刀を振あげた合は王植を斬と落勢をひに乗と蒐
たりしと敵軍膽をひるし八方に散乱せりまきより車と
まめとととと滑及乃堺まで来りりまき太守劉延とと
まき付校十騎と列と城外に出むる関羽馬上は禮とま
太守別来恙あえつといひるを劉延の將軍今何と
行むとと関羽曰る曹丞相と暇を請玄徳乃行末と
尋ねんと劉延曰る玄徳の河北に居る河北の曹丞相
乃大敵あまの丞相いそる將軍と許るへま関羽曰る吾
はじめ浩事とあまを丞相と約と固とと玄徳乃在焉
とだまふ水火とむるんと尋ね去るといひ置り劉延曰る



下喜勢と伏せ
関羽と鉄槌と投す



と青竜刀とあぐるかとすねむ。秦琪が首の地は洛たり。関羽
大音あげく。まきよむふもいのしづく。是乃て。早く舟を
出しとるまきと渡せといひりまき。敗軍あへて逃ちたきり
舟と出しり。関羽北乃岸はあかりと。まきより袁紹の領地
あまこいよく車とせよめと北と望んで進發せ

関羽播鼓斬蔡陽

関羽都と出さより五ヶ所乃関を越六人乃大将を斬る
し。まては黄河乃北は渡りまき。乃中をまき安くまき
路より大将と討たり。ハコトと得ざる人ありといふ。曹
操まきときり。あまはまきと因心とまきぬ。のありと思ふとて。
喋息して止ば。車は流りまき。忽ち騎馬乃容鞭と打り。池

来り。雲長志づき。曹と呼る。関羽馬をひく。まきとまき
ち孫乾を近くより問く。曰く。汝南は別まきより。一向消息
ときき。いんとう仕ひ。孫乾より。汝南乃劉辟。龔都某
を河北は使せし。袁紹と好む。まきと玄徳と汝南へ請ふ。共
まきとあせせ。曹操と伐んと計る。案は相違し。袁紹の手下
乃大将たが。姪とあをい田豊の獄に囚を沮授へ退せけり。
審配郭图志しと得ず。権とのいざらよとといふ。袁紹のよ
り。疑乃ん。あ人あま。萬事決まるとあ。まきとまきよりて
將軍を輕く。行む。いふある。変と起さる。まきとまきを
某のまき。劉皇叔と身と脱る。乃計策と定め。三日己前
は皇叔と汝南は来る。將軍まのり。まきとまきと。輕く

袁紹が處へ行む。馮乃中は落す。害せらるるをみんしと
 と恐む。杖を日よはいごまきまきと来り。早く汝南は来
 り。對面し。人といひ。汝南は關羽にあり。喜び。二夫人は右の
 あゆむきと結る。二夫人孫乾とゆし。玄徳乃事と問ひけ
 る。孫乾は必ぶる。汝南は汝南に落す。後艱難と志の。袁紹は
 兩度まで斬んとせし。と結る。汝南は汝南に落す。後
 まをより路とむ。汝南は望ん。とむ。汝南は汝南に落す。後
 あげと来る。とむ。汝南は望ん。とむ。汝南は汝南に落す。後
 受。袁紹は摩乃。官渡は陣と取。居たり。關羽は
 そろふ都と逃。路と守。り。大将と斬。あゆむ。汝南は汝南に落す。後

下。乃。秦琪と黄河乃。渡。殺。せ。り。と。告。る。汝。南。の。中。を
 怒。り。三。百。余。騎。と。追。蒐。来。り。汝。南。に。已。ま。る。ち。う。く。あ。り。を
 關。羽。馬。と。住。ち。大。音。あ。げ。と。問。ひ。曰。ひ。を。追。ひ。い。ふ。人。と。
 あ。ゆ。む。と。曹。丞。相。乃。本。意。は。昔。と。な。り。を。復。疾。惇。乃。汝。南
 相。乃。告。文。と。む。と。私。は。出。来。り。と。途。と。又。大。將。と。ま。り
 せ。り。と。昔。日。い。ぬ。と。漢。は。降。ら。ざ。り。と。死。ん。と。人。と。誅。戮。と。と。乃
 ま。り。行。ま。り。と。約。せ。り。ゆ。へ。途。と。汝。南。に。渡。ら。ん。と。せ。し。と。の
 一。と。殺。し。来。り。汝。南。に。亦。首。と。失。つ。ん。為。り。と。汝。南。に。小
 去。ら。ん。と。今。中。と。汝。南。に。復。疾。惇。き。も。汝。南。に。秦。琪。が。雙。言
 と。報。せ。ん。と。と。鎗。と。拈。り。と。突。と。蒐。る。不。早。馬。一。騎。馳。き。たり

関將軍と戦ふとあるを呼ぶ。夏侯惇あふひどと問
 ば馬の上より告文と取出しそりる。曹丞相も関將軍
 の忠義とあはれむ。関所とさえだり住んとするそのわら
 ば無事とひつと通させよと。告文を出入り。夏侯惇
 関羽路とせよと。大將と殺せり。丞相とせよと。あふ
 合と曰。まじきありあつて夏侯惇曰。まじき。早生取と都
 送り。丞相の命を任せんと。馬とせよと。関羽二十余合と
 戦ふと。又早馬打と。二將軍を戦ひと休よと。呼り
 来るとあり。夏侯惇曰。雨のあつる使と。答と曰。曹
 丞相路と。関將軍とさえだるものあふ。関をひつと。とせ
 よと。告文と出り。夏侯惇曰。丞相の関羽と途と

関守と殺りたることありあり。答と曰。そのひのぬど都へま
 きて。夏侯惇曰。まじきと。たの者を取逃さまじと。鎗と
 ひひつと。夏侯惇曰。関羽も刀とまじき。又十合をくり戦ふと。
 忽ち早馬来り。二將戦ひと休よと。呼り左右へひと
 分たり。夏侯惇問と曰。丞相関羽と生捉まこと。使
 女台と曰。まじき。道中と。関所を割符と。夏侯惇曰。まじき。住
 んと。そのあふ。無事と通させよと。追く。夏侯惇告
 文と賜と。早馬と立ちあり。いまま。へ来らざる。夏侯惇
 曰。まじき。あふ。人と殺せよ。と。前乃使あふ。
 とう。生捉まこと。兵と下知と。四方より取圍む。まじき。
 大音あげと。元讓。雲長と。戦ひと休よと。呼り来ると。

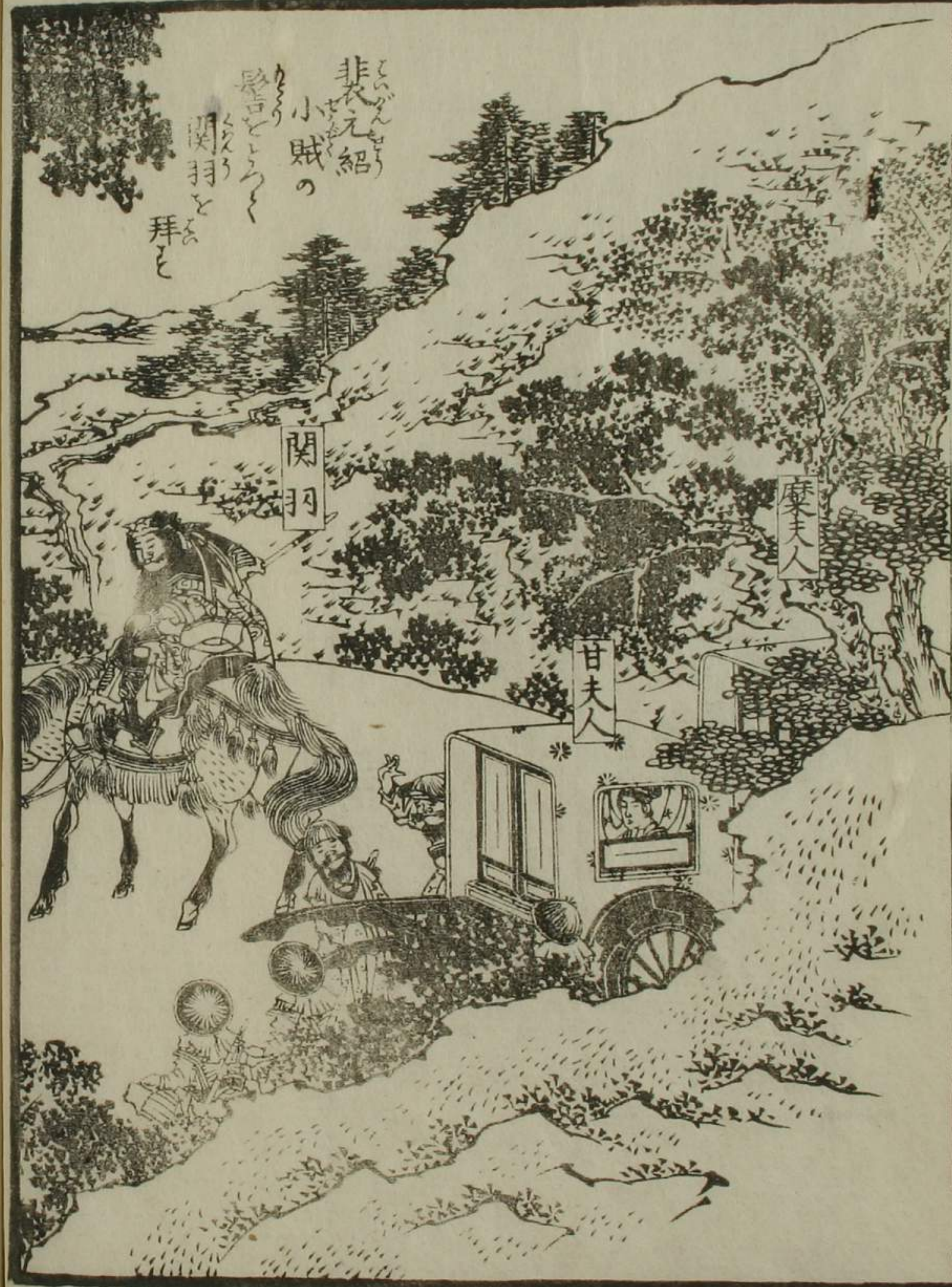
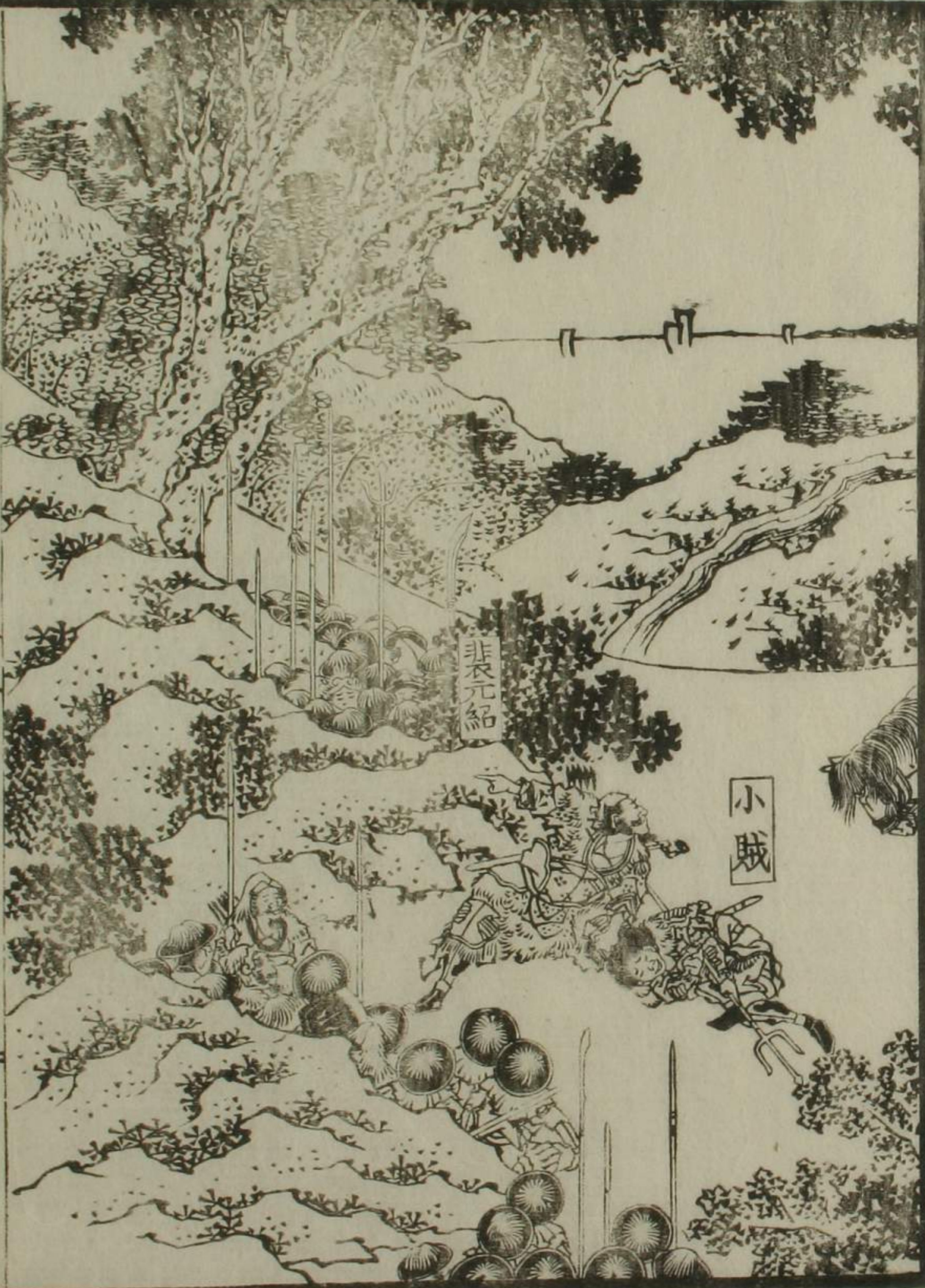
會通編三十四

あり。諸人まきとんる張遼あり。戦ひて止く相待む。わざ
 なく張遼きたり。馬上より尸る。関羽。東嶺関。太守
 孔秀と殺したる由都へきまへ。しかるに。あつて路。と害
 ぬ。あつてのあつて。無事。通させよ。某と来ら。あつて
 日。夏侯惇。曰。秦琪。猿臂。將軍。蔡陽。甥。あり。昔
 日。蔡陽。丞相。まき。あつて。甥。の。秦琪。と。手。下。属
 置り。関羽。まき。秦琪。と。黄河。渡。と。殺。せ。ら。さ。い。て。ら
 黙止。べき。張遼。曰。まき。蔡陽。あつて。此事。と。よ。り。く。尸。る
 まき。丞相。寛。洪。の。と。の。関羽。と。あ。つ。て。その。忠。義。を
 完く。せ。し。め。し。將軍。あ。つ。て。あ。つ。て。昔。あ。つ。て。あ。つ。て。い。は。れ
 ば。夏侯惇。許諾。し。軍。と。収。む。張遼。又。関羽。尸。る。御。邊

い。く。と。き。と。行。め。る。と。関羽。曰。玄徳。今。表。紹。つ。る。居。む。い
 ぬ。と。あ。つ。て。天。と。尋。ね。と。わ。れ。張遼。曰。在。處。知
 る。と。再。び。都。回。り。と。丞相。從。ひ。め。関羽。曰。まき。一。度
 出。と。何。ん。ぞ。又。行。る。御。邊。都。回。り。ま。よ。り。と。丞相。謝
 り。まき。と。相。別。れ。張遼。の。都。上。り。夏侯惇。又。官。渡
 と。守。ふ。関羽。馬。と。早。や。と。わ。と。あ。つ。て。車。追。付。右。の。事。と。物。詔。り
 し。と。日。と。あ。つ。て。傾。た。る。路。乃。り。と。宿。と。借。次。乃。日。大。雨
 降。は。た。と。片。時。と。途。を。車。と。守。護。し。と。進。發
 せ。と。日。あ。つ。て。雨。晴。な。し。と。乾。ん。と。岡。の。上。る。家
 又。宿。と。借。り。と。家。主。出。む。と。と。名。字。と。問。を。を
 関羽。は。曰。ば。ら。と。来。意。と。詔。ふ。家。主。喜。ん。と。尸。る。某。の。郭

常とPとをあるあり。久しくある世と遁を。將軍乃威名と交
 今幸ひは見ゆると得たりと。羊と宰と酒とまぐち。二夫人を
 後堂へ請どと持成るを。関羽孫乾一處にわのまうと。濕る
 它のと火は焚り馬は秣を創せらる。さても黄昏はらうて。入年
 若を大將從者五六人と引と。あつとく来りらる。家主乃郭
 常もか子も来りら。関將軍を見へなるとい。関羽問と曰
 まきいさる人ぞ吾と曰まきい老父が子よと。関羽との子よ
 ひるの。今いの方より回りらる。と問は獵は出と。回り来り
 と答ふ父乃郭常はたりの涙とあぐ。とやらる。其の先祖より
 儒道とあると。家あると。天の乱とさけと。古の田
 耕と年已老と。只の一子ありと。Pとせと。惡道とあると。儒

業と學と。明暮た。獵漁釣と事と。親乃諫と。ま
 ほど。家を不幸あり。関羽は。今天下乱と。合戦を
 び弓馬と學と。武藝と嗜と。あ。後う。大功を
 まも。郭常は。武藝と嗜と。好と。子に放蕩と
 して用と。足と。関羽嘆息と。熟と。深更とい。臥房に
 入と。孫乾は。父の。賢人。子に
 ま。不肖あり。天命乃。孫乾は。例ま。こ
 ひ。瞽盲の愚頑と。舜と。聖人と。生り。例ま。こ
 あ。寐入た。と。俄。屋乃。後
 入。馬嘶ひ。馬の。沸。と。関羽驚ひ。起
 あ。劍と。行。郭常は。子。地上。倒。と



う子あり乃きい。扱ひ欲心あをやまげ。前よりまのまき又も通と
 待居たるあり。蹴ちし。とまことと。馬を打てまてこをい。
 真先より立たる大將大音あげとやうい。まの張角が支黨
 大方裴元紹といふものあり。爾を無事にとあふと思
 へま。ろろすく赤兎馬をわとまて。異儀におよび目よとの
 せんと待たけたり。関羽まをときひと打笑ひ。欲心熾盛乃山賊
 どもむし。張角の徒よと。かをまの関羽とまて。取ぬとの
 とまると。却て爾が首と夫あふ。裴元紹又やうい。まを
 顔あきし。と髯あがれ男を関羽といり。ときま。卒に目
 よいんを。再びまぬちもの人ある。関羽刀をよみ。左の手よ
 髯を握り。とまをんよと叫り。なるを。裴元紹大は驚馬に馬よ

下。郭常の子を髯とり。引伏再拜し。地上に跪
 け。関羽いあるゆ。と問ふ。答を。某の天公將軍張
 角の徒ひし。裴元紹といふものあり。黄巾の漢黨なるびそ
 のちへ身乃置處す。山林のわのぬり。諸方ろあふま。ゆのと結ふ
 と山賊の業と。今朝まのその来り。一人乃旅客赤兎馬と
 天下無双の名馬を乗。うあふ。まて通るべし。まの奪ひ。こ
 といひ。ゆへ。わろろど。待掛たり。量ざる。関將軍より。それ
 の。まの者。生取と斬るといひ。まを。関羽。つる。まを。おえ
 だ。郭常が志し。とあふ。その子。殺さ。まの。びと。馬乃
 前より。繩と。ぬゆる。させ。れ。頭を。わ。鼠乃。鼠が。と。去
 る。関羽又裴元紹を問。曰。御辺。あ。と。名。と。り

九と答ふ曰まをより二千里と隔る卧牛山といへる山ありその
 山は周倉と関西より出たふあり板助虬長容白をま
 はど雄壮よりと。左右の臂より千金とあぐ。とち張寶志
 たがの。黄巾の黨なりし。近ぶる山林に身を寓る常は將
 軍の威名と志たひ時とまの。拜し見へんと。和が。まま
 中ときまの。関羽長葉し。山林の中。忠
 義の入りあり。賊とあま。御辺今より邪と去。正きま。人
 裴元紹拜謝し。を。関羽と。打立。は。あ。ま
 馬塵とあげと来。のあり。裴元紹と望。定め。され
 周倉と。い。その勢。馳。と。馬
 より一人乃大将路の。拜伏。関羽ま。扶け起し

御辺い。ま。か。と。問。答。甘。関
 西乃周倉と。昔日張寶が手。戰場
 と。将軍の尊顔と拜。常。身。盗賊
 におち入。将軍。事。恨。今日幸
 ひ。天。賜。拜。得。孫。将軍
 某。馬前。一小卒。た。死
 とも。関羽。御辺。と。ま
 ら。相。勢。周倉。曰。関。将軍。後
 と。率。行。手。勢。汝。関。将軍。後
 べ。問。同。答。関。事。仔細。二
 夫人。甘夫人の。曰。将軍都。出。より。千里と

志のいご多く乃艱難之經歷。いごのいも人乃助を受む。され
る廖化が送らんといひける。將軍ささく許むを。今も是
るどくある。益をての頼あべ。人乃談論を扼ん。まの曹
操がきこるん恥し。まの女乃身あり。將軍よる料
め。関羽嘆服し。まのぞれ。周倉はむのち。先
御辺を阻ぶ。まのむとく。二夫人まを喜ぶ。先
山中を回り。志がく棲遅。まの重孫を招く。待ひ。周倉
頓首し。まの。某の言は足ざる。匹夫あるが不幸。身
盗賊のまに。入は孫は非とあ。乃のあり。今將軍を見
へ。雲といひ。天日とん。將軍ま。外に求む。まの。手
下乃勢乃相従ん。と。思ひ。外に求む。まの。手
下乃勢乃相従ん。と。思ひ。

いご。志がく。まの。入遺。雷め。裴元紹。あ。置某。只
一人歩行し。將軍を従ひ。万里と。辭を。関羽との
志。乃切あると感。二夫人。右と。説。甘夫人の。曰。彼
一人。まの。伴ひ。あ。妨げ。あ。関羽。あ。由。告。
一人。まの。伴ひ。あ。裴元紹。あ。周倉。行。あ。某
も相従ん。周倉。曰。御辺。今。まの。手勢。と。散。あ。
志。が。く。まの。士卒。あ。あ。あ。あ。関將軍。
後。行。あ。馳。回。り。御。辺。まの。裴元紹。あ。と。
得。兵。引。具。快。と。去。まの。関羽。孫乾。車。守。り。周
倉。を。伴。ひ。途。を。あ。日。を。經。汝。南。乃。界。あ。あ。あ。
山。乃。上。古。き。城。乃。あ。あ。望。まの。處。乃。人。あ。者。乃。龍。乃。あ。



張飛

張飛
兇憤

関羽の戦と需

會天軍全三國志二卷之九

〇三三



関羽

會天軍全三國志二卷之九

〇三三

